

I 都心臨海部における歴史的建造物の保全活用

横浜市には、都心臨海部を中心に、開港以来の近代建築や西洋館、港湾地区の土木産業遺構などが残されており、郊外部には、農村の風情を伝える古民家や社寺が残されています。横浜の魅力を向上させるため、横浜の景観を特徴づける重要な要素である歴史的建造物を創造都市施策などとも連携し、積極的な保全活用を進めています。

平成 29 年 9 月 26 日
観光・創造都市・国際戦略特別委員会
都 市 整 備 局

1 歴史を生かしたまちづくり要綱

関内を中心とする都心臨海部は、開港以来発展した旧市街地であるため、歴史的建造物が多く残されており、横浜らしい景観が形成されています。これら歴史的建造物の保全活用を図る仕組みとして、昭和 63 年度に「歴史を生かしたまちづくり要綱」を制定しました。

景観的に価値の高い歴史的建造物を「登録」し、特に重要なもので将来の保全活用計画について所有者の同意が得られたものを「認定」し、保全活用計画を定めた上で外観保全工事に対する助成などの支援を行っています。現在横浜市全域で、登録が 206 件、認定が 92 件となっています。

歴史的建造物をまちづくりに生かしていくためには、積極的に活用していく必要性が高いことから、平成 28 年度にはふるさと納税（横浜サポーターズ寄附金）を活用し、歴史的建造物のリノベーションに対する助成制度を創設しました。

<歴史的建造物の登録・認定件数>

| 種 別 | 社 寺 | 古民家 | 近代建築 | 西洋館 | 近代和風 | 土木遺構 | 計 |
|-----|-----|-----|------|-----|------|------|-----|
| 登 録 | 23 | 29 | 55 | 38 | 6 | 55 | 206 |
| 認 定 | 0 | 14 | 32 | 22 | 0 | 24 | 92 |

2 広報・普及の取組

「歴史を生かしたまちづくり」に関する市民の皆様の理解を深めるため、専門家らによって組織された公益社団法人横浜歴史資産調査会（ヨコハマヘリテッジ）と協力して、市民向けセミナーの開催、広報紙「歴史を生かしたまちづくり横浜新聞」やパンフレット「都市の記憶」の発行などを行っています。



H29 歴史セミナー
(テーマ：震災復興橋梁)



歴史を生かしたまちづくり
横浜新聞（特集：氷川丸）

4 魅力的な空間形成に向けた企画調整

日本大通りの歴史的景観の保全

開港以来のメインストリートとして、歩道拡幅整備、歴史的建造物の保全活用、歴史的なまちなみを担保する地区計画、オープンカフェなど、風格と賑わいのある景観を誘導してきました。



通景空間（ピスタ）



オープンカフェ



夜景

山手西洋館の保全活用

旧外国人居留地であった山手地区は、今も西洋館が数多く残されており、エリスマン邸をはじめ、7 館の西洋館を公園内で保全活用する等、横浜らしい景観を生かしたまちづくりを進めています。



エリスマン邸



ベーリックホール



西洋館ウェディング

空間演出・プロモーションの展開

歴史的建造物の魅力を高めるため昭和 61 年よりライトアップを行うほか、三塔の眺望に着目した広報などを行っています。



ライトアップ（横浜税関）



三塔ポイント

3 都心臨海部の主な歴史的建造物の保全活用の取組

歴史的建造物の保全にあたっては、要綱による助成制度に加え、市街地環境設計制度、市街地再開発事業などのまちづくり制度とも連携し、外観保全から復元・移築など多様な手法によりに歴史的景観の保全を図っています。

<多様な手法による保全活用事例>



損保ジャパン 日本興亜横浜馬車道ビル

オフィス

要綱認定第 1 号。旧建築物の解体後、部材を再利用して外壁を復元。

当初建築 T11(1922)[H2(1989) 復元竣工]



ストロングビル

ホテル

解体後、ホテルの低層部にほぼ新しい材料で外観を復元。

当初建築 S13(1938)[H21(2009) 復元竣工]



赤レンガ倉庫

文化・商業施設

当初建築物を改修し、文化・商業施設として再生・活用。

当初建築 M44(1911)/T2(1913)[H14(2002) 改修竣工]



旧横浜船渠第 2 号ドック (ドックヤードガーデン)

イベント広場

ランドマークタワーの建設にあわせ復元。国指定重要文化財。

当初建築 M29(1896)[H5(1993) 復元竣工]



旧東京三菱銀行横浜 中央支店

集合住宅

低層部に旧建築物の一部を復元した高層棟を建築。

当初建築 S9(1934)[H16(2004) 復元竣工]



横浜情報文化センター

博物館・ホール

旧商工奨励館の一部を保全しながら高層棟を建設。

当初建築 S4(1929)[H12(2000) 復元竣工]

II 港の歴史性を活かした新たな賑わい拠点づくり

横浜港港湾計画では「市民が集い、憩う港」を方針の一つとして掲げています。その一環として、物流機能の沖合展開など利用形態の変化が生じている内港地区において、土地利用を転換し、新たな賑わいの拠点づくりを進めています。「新港地区」「象の鼻地区」では、新たな賑わいづくりにあたり、港の歴史が感じられるよう、歴史的資源を活用する取組を進めています。

1 象の鼻地区「横浜港発祥の地」

象の鼻地区は、開港(1859年)時に作られた二本の波止場に囲まれた水域に面した「横浜港発祥の地」です。開港 150 周年を機に防波堤が明治期の状態に復元され、周辺は象の鼻パークとして整備されました。



明治 43 (1910) 年頃の横浜港全景



現在の様子



地下に保存された軌道・転車台をガラス越しに展示



象の鼻テラス

地区内の象の鼻テラスは、横浜港発祥の地という伝統を踏まえ、新たな文化交流の拠点となる施設として、様々な文化芸術活動に活用されています。



2 新港地区「近代港湾発祥の地」

新港地区は、レンガ造倉庫、鉄道等が完備された日本初の近代的ふ頭として、横浜港の中心的役割を担ってきました。現在、貨物のコンテナ化等により新設のふ頭に役割を譲り「みなとみらい 21 事業」の新港地区として位置づけられ、港の歴史を継承しつつ、新たなまちづくりが進められています。

赤レンガ倉庫

1913年に完成した我が国を代表するレンガ造りの歴史的建造物である倉庫を地区のシンボル施設として活用



倉庫使用状況 (昭和中期)



現在の様子 (イベント実施中)

汽車道

旧臨港線の鉄道敷を、桜木町と新港地区を結ぶプロムナードとして活用



賑わう汽車道を対岸から望む

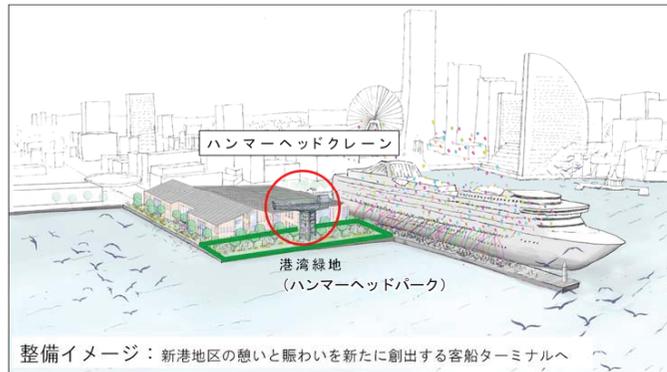


3 新港地区客船ターミナル(仮称)とハンマーヘッドパーク(仮称)の整備

新港地区客船ターミナル(仮称)

新港 9 号岸壁は客船バースとして改修を進めており、その背後には、公民連携国際客船クルーズ拠点形成の一環として、CIQ (税関・出入国審査・検疫) 施設、商業・サービス施設、駐車場等からなる複合施設を整備予定です。

整備内容：CIQ 施設、商業・サービス施設、駐車場 等
敷地規模：約 1.8 ha
整備時期 (予定)：平成 31 年春頃 (現在 開発事業者公募手続中)



整備イメージ：新港地区の憩いと賑わいを新たに創出する客船ターミナルへ

ハンマーヘッドクレーン (50 t 電気定置起重機)



ターミナルに隣接して整備するハンマーヘッドパーク(仮称)では、「ハンマーヘッドクレーン」を港湾の歴史を伝えるモニュメントとして活用する予定です。同時期の英国製起重機として我が国に現存するのは、佐世保、長崎を加えた 3 基のみであり、横浜・佐世保は近代化産業遺産に、長崎は世界遺産の構成遺産に、それぞれ認定されています。

平成 30 年度にパーク整備・クレーン補修工事を開始し、ターミナルの開業に合わせて公開する予定です。

完成時期：大正 3 年(1914 年)

*平成 19 年(2007 年)近代化産業遺産に認定

製 作：コーワズ・シェルドン社 (英国)

平成 29 年 9 月 26 日
 観光・創造都市・国際戦略特別委員会
 文化観光局

Ⅲ 創造都市施策で活用している歴史的建造物について

○YCC ヨコハマ創造都市センター（旧第一銀行横浜支店）【市認定歴史的建造物】



| | |
|--------|---|
| 所在地 | 中区本町6-50-1 |
| 構造等 | 鉄骨鉄筋コンクリート造 地上4階 地下2階 |
| 建築時期 | 昭和4年（1929年） |
| 活用開始時期 | 平成21年 |
| 建物所有者 | 横浜市 |
| 施設活用団体 | NPO法人YCC（平成27年度～） |
| 活用状況 | 3階：ファブラボ、レンタルスペース 2階：コワーキング・スペース 1階：クリエイティブ・ショールーム ギャラリー、カフェ |

○THE BAYS（旧関東財務局）【市指定文化財】



| | |
|--------|---|
| 所在地 | 中区日本大通34 |
| 構造等 | 鉄筋コンクリート造 地上4階 地下1階 |
| 建築時期 | 昭和3年（1928年） |
| 活用開始時期 | 平成29年 |
| 建物所有者 | 横浜市 |
| 施設活用団体 | 株式会社横浜 DeNA ベイスターズ |
| 活用状況 | 4階：運営者オフィス 3階：ミーティングスペース 2階：CREATIVE SPORTS LAB（シェアオフィス） 1階：+B（セレクトショップ）、&9（カフェ） 地下1階：ACTIVE STYLE CLUB（スタジオ） |

○東京藝術大学大学院映像研究科馬車道校舎（旧富士銀行横浜支店）【市認定歴史的建造物】



| | |
|--------|---------------------|
| 所在地 | 中区本町4-44 |
| 構造等 | 鉄筋コンクリート造 地上3階 地下1階 |
| 建築時期 | 昭和4年（1929年） |
| 活用開始時期 | 平成17年（2005年） |
| 建物所有者 | 横浜市 |
| 施設活用団体 | 国立大学法人東京藝術大学 |
| 活用状況 | 映像研究科映画専攻の校舎 |

平成 29 年 9 月 26 日
 観光・創造都市・国際戦略特別委員会
 環 境 創 造 局

都市緑化よこはまフェアにおける都心臨海部の取り組みについて

1. 開催概要

名 称 第 33 回全国都市緑化よこはまフェア
 愛 称 ガーデンネックレス横浜 2017
 開催期間 2017 年 3 月 25 日（土）～6 月 4 日（日）（72 日間）
 会場構成 ・みなとガーデン（都心臨海部会場）
 〔山下公園、グランモール公園、港の見える丘公園、
 横浜公園、日本大通り、象の鼻パーク、新港中央広場
 運河パーク〕
 ・里山ガーデン（郊外部会場）〔横浜動物の森公園植物公園予定地〕
 主催者 横浜市、公益財団法人都市緑化機構
 運営主体 第 33 回全国都市緑化よこはまフェア実行委員会
 目標来場者数 500 万人

ロゴマーク



シンボルキャラクター
「ガーデンベア」



2. 主な取組

| 事業名 | 説明 | 主な内容 |
|-------------|------------------------|---|
| (1) 会場整備 | フェアの会場整備 | みなとガーデン（8か所）、里山ガーデン |
| | | まちなかフラワースポット（開港広場、山手西洋館ほか6か所） |
| (2) 屋外出展 | 企業・自治体等の出展 | 庭園・緑化壁出展（42企業・団体） 自治体出展花壇（22自治体） |
| (3) 公式行事 | フェアの節目に実施する行事 | 開会式（大さん橋ホール）、閉会式（大さん橋ホール）、 全国都市緑化祭（大さん橋ホール、山下公園 他） |
| (4) 主催イベント | 主催者が実施するイベント等 | コンテスト（庭園出展、ハンギングバスケット、フォト）、 ワークショップ、屋内展示（赤レンガ倉庫）、シンポジウム、 スタンプラリー 等 |
| (5) 広報 PR | フェアの広報・PR | シンボルキャラクター、ロゴマーク、交通広告、街中装飾、 ガイドマップ作成、誘導サイン、テーマソング、広報親善大使、 フラワーアンバサダー、WEB・SNS 活用、LINE スタンプ、 プレス内覧会、パブリシティ活動 等 |
| (6) 全市展開 | 18区と連携した事業展開 | 花や緑による演出、広報活動、イベントの開催 等 |
| (7) 協働・協賛 | 公民連携や協賛 | 市民連携花壇、ボランティア活動、ベイスターズガーデン、 商業施設・商店街連携、学校連携、企業協賛 等 |
| (8) 協働(その他) | 花や緑に関係する民間施設や民間イベントと連携 | パートナー会場（7）、連携イベント（7）、応援イベント（58） |

3. 来場者数とアンケート結果

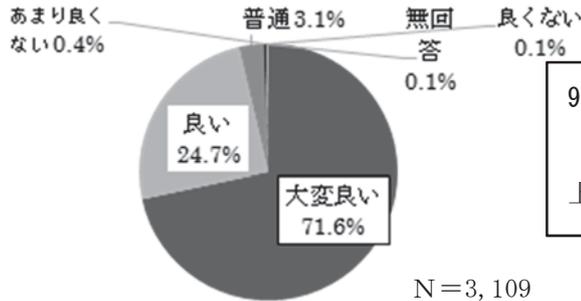
(1) 来場者数 (目標来場者数 500万人)

6,006,154人

内訳：みなとガーデン 5,668,543人、里山ガーデン 337,611人

(2) 来場者アンケート結果 (主な項目) 回答数=N

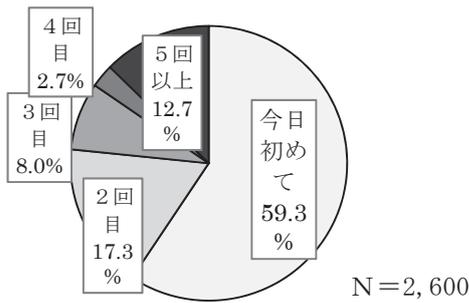
ア フェアの評価



96.3%の人が「大変良い」「良い」と評価。「大変良い」が「良い」の評価を大きく上回っている。

N=3,109

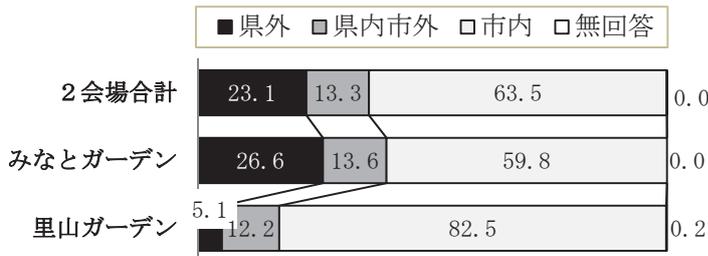
イ みなとガーデン来場回数



「今日初めて」が6割となっている。2回以上のリピーターは、4割で、何回も来場して楽しんでいる人も多い。

N=2,600

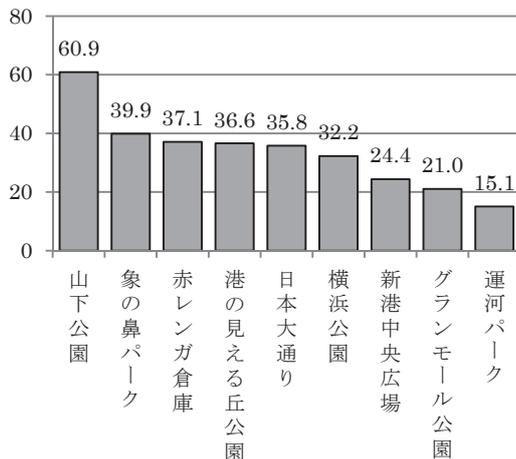
ウ 居住地



みなと・里山ガーデンともに市内からの来訪が多く、みなとガーデンの方が市外からの訪れる割合が高い。

N=3,109

エ みなとガーデン (9会場) 来訪場所 (来訪予定含む) ※複数回答可



山下公園を訪れる人が多い。なお、みなとガーデンの一日あたりの平均来訪会場数は3.03 (箇所) となった。

N=2,600

都市緑化よこはまフェア 都心臨海部（みなとガーデン）の取組



グランモール公園



運河パーク



新港中央広場



象の鼻パーク



山下公園



港の見える丘公園

協働



連携イベント



ボランティア活動



市民連携



商業施設との連携

広報・PR



企業協賛によるPR



紙媒体でのPR



車両内広告の掲出



懸垂幕



誘導サイン



バナー



LINEスタンプ



公式行事・主催イベント



開閉会式



フォトコンテスト



シンポジウム



屋内展示・ワークショップ



全国都市緑化祭

まちなかフラワースポット



開港広場



横浜公園



YOKOHAMA STADIUM



日本大通り